

公益信託 今井記念海外協力基金 2003 年度助成事業一覧

(単位：万円)

事業名	実施団体名	事業実施国	助成額
1. 無医村への鍼灸によるヘルスキャンプの実施(2年度)	ティテパティ よもぎの会	ネパール	70
2. 飲料水プロジェクト	世界の子どもと手をつなぐ会	ネパール	28
3. 消化器官寄生虫対策及び保健衛生環境を改善する	(特活)日本ブルキナファソ友好協会	アフリカ	90
4. フィリピン・ミンドロ島における少数民族・マンヤン族の女子職業訓練事業(2年度)	(特活)21世紀協会	フィリピン	70
5. タイ山岳民族の子どもたちの学校寮建設	地球市民の会かながわ	タイ	60
6. 読書推進運動 教員養成校における人材育成事業	ASPB ラオスの子どもに絵本を送る会	ラオス	70
7. タイ国東北部メコン川流域のコンケン県ノンバイにおける有機農業指導者の育成事業	(特活)環境修復保全機構	タイ	50
8. 開発途上国の経済的理由により就学できない子ども達に対する学資支援(3年度)	ドン・ボスコ海外青年ボランティアグループ	パプアニューギニア	30
9. 児童に対する健康診断、教師及び児童への衛生教育	じゃっど	ラオス	30
10. イラン南東部震災の被災民への医療救援活動	(特活)AMDA〔緊急救援〕	イラン	50
助成件数：10件			548万円

## 2003 年度助成事業 概要・成果

### 1. 「無医村への鍼灸によるヘルスキャンプの実施」(2 年度)

#### 【実施団体】

ティテパティ よもぎの会 (所在地: 千葉県柏市)

#### 【対象地域】

ネパール 無医村の村 (ダブチャ、アラポッド、ティミ、パネパ、ルブ、ダチ、ポカラ)

#### 【背景】

ネパールでは、貧困の中で医療事情が極めて悪く、無医村の村が多いため、住民は治療を受ける機会が少ない。したがって、生活習慣病による冷え性や腰痛、リュウマチの患者が多いネパールでは、簡単な治療器具と 10 本の指で治療できる鍼灸療法は効果的である。

#### 【目的】

無医村の村々で東洋医学 (鍼灸・指圧) による巡回診療 (ヘルスキャンプ) を実施することによって、患者の治療を行い健康回復に寄与し、医療技術者を養成しネパール医療技術の向上に貢献する。

#### 【事業内容と成果】

日本人鍼灸専門家 1 名、現地鍼灸師 5~10 名、現地 NGO10~20 名で運営されたヘルスキャンプ (巡回診療) を無医村の村々で年 7 回 (1 回 1 週間) 実施 (治療を行った人数 14,222 名)

治療に使用する「もぐさ」をネパールで自生するよもぎから 10 キログラム製造

## 2. 「飲料水プロジェクト」

### 【実施団体】

世界の子どもと手をつなぐ会（所在地：千葉県習志野市）

### 【対象地域】

ネパール パルパ県 ジャルパ郡3村（バルム村、チャブディ村、ラクセ村）

### 【背景】

2001年8月の大規模な崖崩れで、対象地域の飲料水の水源が土砂で埋まってしまったため、飲料水確保が困難になった。各村の村人は、特に雨期は、土砂でにごった不潔な川や池の水を、30分～1時間かけて毎朝夕汲みに行かなくてはならない。

### 【目的】

清潔な飲料水を、各家庭に提供することが本事業の目的である。

### 【事業内容と成果】

使われていない3つの水源よりパイプを引き、新しく設置した集水タンクに水を送り、そこからさらに、2.7キロ下にあるバルム村の被害を受けていない貯水タンクに送水（パイプ埋設作業は、一部村民によって行われた）。その貯水タンクから、今まで使っていたパイプを利用して3ヵ村の各家庭に給水した。

### 3. 「消化器官寄生虫対策及び保健衛生教育事業」

#### 【実施団体】

特定非営利活動法人 日本ブルキナファソ友好協会（所在地：千葉県白井市）

#### 【対象地域】

ブルキナファソ グナグナ州バニキディ村/トゥイ州ボホベレバ村

#### 【背景】

対象地域では、マラリアはもとより、呼吸器官感染症、アメーバ性疾患、黄色ブドウ球菌などの罹患率が高い。罹患率が一番高いマラリアを除いても、全住民一人当たり2種類以上の感染症・寄生虫症に罹患している。

#### 【目的】

農村部に蔓延する線虫及び条虫による消化器官寄生虫症を含む感染症とその予防法を主体とした保健衛生教育を実施し、各種疾病罹患率の持続的低減を図るとともに、保健衛生環境改善を図ることを目的とする。

#### 【事業内容と成果】

バニキディ村とボホベレバ村とその2ヵ村に隣接する集落の村民を対象に、下記事業を実施した。

保健衛生講習（4回：2003年6月、9月、12月、2004年3月）

消化器官寄生虫駆除剤の配布（2回：2003年6月、2004年3月）

#### 4. 「フィリピン・ミンドロ島における少数民族・マンニャン族の女子職業訓練事業」(2年度)

##### 【実施団体】

特定非営利活動法人 21世紀協会(所在地:東京都八王子市)

##### 【対象地域】

フィリピン 西ミンドロ州 サンタクルス郡 カラミンタオ村/パクパク村

##### 【背景】

低地のフィリピン人から隔絶され、山で狩猟採集を営んできた少数民族・マンニャン族は、過去数十年、急速に乱開発が進んだ結果、食べるものがなくなり飢えに瀕してきた。当団体は1990年から彼らに対する支援を開始し、農業という新しい生産手段を提示した。しかし、村では相変わらず不衛生な環境で乳幼児死亡率が8割を超え、少数民族で、特に女子となると、ハイスクールを出ても就職の機会を得られない状態である。

##### 【目的】

マンニャン族女子に調理と裁縫の技術を身に付ける機会を提供し、将来的に彼女らが生計を立てるきっかけをつくることを目的とする。

##### 【事業内容と成果】

マンニャン族の女子8名を対象とした調理・裁縫の初歩的職業訓練を実施した。

###### 調理部門:

パン作りの基本・夕食作りの講義と実践、販売先に関する講義〔販売先調査、商品開発、販売方法の開発等〕、パースデーケーキ作りの実践(2003年6月~2004年4月、週3回、1コマ3時間)

###### 裁縫部門:

ミシンの使い方とパターンの作り方の訓練、ブラウス(袖なし、袖つき)・ショートパンツ・スカートの作り方の講義と実践(2003年12月~2004年4月、週2回、1コマ2時間半)

## 5. 「タイ山岳民族の子ども達の学校寮建設」

### 【実施団体】

地球市民の会かながわ（所在地：神奈川県横浜市）

### 【対象地域】

タイ チェンマイ県 サムーン郡 メートー村

### 【背景】

タイ北部の山岳民族は、山の中に点在するそれぞれの部族の集落に住んでおり、学校のあ  
る大きな村までは道もない山の中を何時間も歩かなければならず、入学しても数ヶ月で登校  
しなくなる子どもが多い。また、1997年のアジア通貨危機は、末端の多くの人々を直撃、  
貧困がさらに悪化し家庭の崩壊が進み、子ども達の就学率はさらに落ち込んでいる。

### 【目的】

カレン族、モン族、リス族、ラフ族など困窮度の高い集落の子ども達を受け入れているメ  
ートー学校の敷地内に寮を建設し設備を充実させることで、子ども達がより良い環境で勉学  
に励めるようにする。

### 【事業内容と成果】

9m×8m×4mの最大40人近くが入寮できるコンクリート製の寮（屋根をスレートで葺く）を建設

室内に木製の8人用2段ベッドを4基設置（32人の入寮が可能に）

水浴び場とトイレを整備

服や生活用品を入れる個人用ロッカーを設置

## 6. 「読書推進運動 教員養成校における人材育成事業」

### 【実施団体】

ASPB ラオスの子どもに絵本を送る会（所在地：東京都大田区）

### 【対象地域】

ラオス 8 県の教員養成校（ルアンナムター県、ルアンパバン県、シェンクアン県、ヴィエンチャン県、サバンナケート県、サラワン県、チャムパサック県、ヴィエンチャン特別市）

### 【背景】

ラオス全国における読書推進運動を 1992 年より当会が支援する中で、担当教員のみを図書利用セミナーを実施するだけでは、教員の転任や多忙さに対応できず、現場での運用に限界が出るのがわかった。教員養成校での人材育成が担い手を増やす効率のよい手段ではないかと考え、提案したところ、関係省庁からも賛同が得られた。

### 【目的】

学校で継続的に図書を利用してもらうためには、学校で担当教員以外の教員も担い手となる必要がある。読書推進担当者を育成し、裾野を広げることで、読書推進運動の活性化と定着を図ることを目的とする。

### 【事業内容と成果】

テキスト印刷：2002 年 6 月よりテキスト作成チームを編成し、「生徒用テキスト」及び「講師用ガイドブック」を制作。2003 年 7 月にサンプル版を印刷し、8 月に開催された「講師育成セミナー」にて試用。11 月に加筆修正を加えたテキストを印刷。

講師育成セミナー（当基金助成金充当）：2003 年 8 月 4 日～9 日、「子どもの発達過程と読書」「学校における図書管理方法」「読書に導くためのテクニック」等について、各教員養成学校の読書推進カリキュラム担当者 53 名がセミナーを受講。

読書推進セミナー：2003 年 12 月～2004 年 1 月上旬、各教員養成学校で担当講師が 4 日間セミナーを実施。

評価会議開催：2004 年 3 月 23 日～25 日、ヴィエンチャン特別市において開催。各校から実施状況に関し報告され、その後「カリキュラム」「実習」「テキスト」の各テーマで次年度の改善策を話し合った。

## 7. 「タイ国東北部メコン川流域のコンケン県ノンパイにおける有機農業指導者の育成事業」

### 【実施団体】

特定非営利活動法人 環境修復保全機構（所在地：東京都町田市）

### 【対象地域】

タイ コンケン県 ノンパイ

### 【背景】

117戸400名が居住している対象地域の住民の平均所得は約4万バーツ（約11万円：2003年1月のレートで換算）/年であり、タイの平均所得約44万バーツ（約121万7千円）/年を大きく下回っている。農地では稲の他、キャッサバ、さとうきび等が換金作物として栽培されており、生産量増大をはかるために投入される化学肥料も増大傾向にある。しかし、近年の化学肥料価格の高騰により、購入費が生活を圧迫しており、営農を放棄して都市へ出稼ぎしなければ生活できない農家が増えている。

### 【目的】

本事業では、有機農業指導者の育成に取り組み、持続的農業の重要性とその具体的な推進方法を啓蒙することが目的である。事業全体の期間は3年間であり、事業終了後には、現地農家が自立して持続的農業に取り組めることを目指す。

### 【事業内容と成果】

聞き取り・アンケート調査（有機農業への理解度や実施に関する要望等）を実施（4月1日）

有機農業指導者育成研修（持続的農業の重要性、有機肥料と化学肥料、生物相豊かな土作り等）を実施（8月31日～9月1日：21家族出席）

村の共有地に大型のコンクリート堆肥槽を設置・農家個人の耕作地用に竹製の堆肥槽を作成（9月）

持続的農業と有機肥料に関するセミナーを実施（3月25日）



## 8. 「開発途上国の経済的理由により就学できない子ども達に対する学資支援」(3年度)

### 【実施団体】

ドン・ボスコ海外青年ボランティアグループ(所在地:東京都新宿区)

### 【対象地域】

パプアニューギニア ニューブリテン島 ブナ・ボスコ・アグロテクニカル・スクール

### 【背景】

対象国では、勉学の意欲を持ちながらも経済的理由で学校に通えない子ども達が多く存在し、職に就くことも出来ず、麻薬や武装集団に加わってしまうという社会問題を抱えている。当団体では、1994年から学資支援を実施している。

### 【目的】

勉学の意欲を持ちながらも経済的理由で学校に通えない子ども達に対し、学校での勉学ができるよう学資の援助を行うことによって、社会の為に働く人材の育成に貢献する。

### 【事業内容と成果】

ニューブリテン島ラバウル郊外のブナ・ボスコ・アグロテクニカル・スクールの30名の中学生・高校生に対し、学資(8000米ドル/年の一部)を支援した。

## 9. 「児童に対する健康診断、教師及び児童への衛生教育」

### 【実施団体】

じゃっど（所在地：鹿児島県川内市）

### 【対象地域】

ラオス サニャブリ県 ポーテン郡

### 【背景】

対象地域は山岳地帯に位置し、貧しい少数民族が多く住んでいる。彼らの多くは、竹を編んだ家に住み、焼畑農業で生計をたてている。学校では、衛生教育はほとんど行われておらず、また、身長、体重を計ったことのない子どもが多い。

### 【目的】

教師に衛生教育を行い、子ども達の教育に役立たせる。また、学校で児童に対する健康診断を行うことにより、親が衛生に対して興味を持ち、栄養に気を配るようになることを目指す。

### 【事業内容と成果】

教師を対象にしたセミナーを実施（小学校 31 校から 62 人の教師が参加）

2003 年 12 月 4～5 日に、県保健局と郡保健所の医師が基礎的な衛生、救急処置、学校の環境整備、感染症の予防、歯磨き、マラリアとデング熱の予防、寄生虫予防について講義。

小学生を対象とした健康診断を実施（小学校 6 校の児童 650 人が受診）

2003 年 12 月 3～6 日にかけて、郡病院の医師と歯科医師が子ども達への健康診断（身長、体重、皮膚、肥疾患、う歯等）を行い、駆虫薬を投与。子どもに健康カードを渡し、親に確認してもらい学校で保管。

## 10. 「イラン南東部震災の被災民への医療救済活動」

### 【実施団体】

特定非営利活動法人 AMDA

### 【対象地域】

イラン・イスラーム共和国テヘラン市、ケルマン市、バム市およびバラヴァト地区

### 【背景】

2003年12月26日に起きたイラン南東部地震は、局地的な災害でありながら一都市を直撃したため、死者4万人（イラン政府発表）の甚大な被害となり、住民の生活に大きな影響を及ぼした。AMDAでは第一報を受けた後、国連災害情報や各国報道機関の発表をはじめ、イラン国営放送や現地協力者などから情報収集を開始し、翌27日に緊急医療チームを被災地に派遣し、イランの協力者と共に医療支援活動を実施することを決定した。

### 【事業内容と成果】

イラン入りした直後に実施された医療調査の結果、殆どの重傷者は既に安全な他都市に輸送されたものの、残った被災者の多くが初期の応急処置を受けたか、或いは全く医療機関にかかっていないという状況が判明したため、そうした被災住民を主な対象とし、治療を開始した。

28日に先遣隊が到着し、状況調査と医療物資支援を開始した。31日に本部から医師を含む4名が現地に到着し、ケルマン市内の緊急輸送先であるケルマン州立総合病院ICU、一般病棟に輸送された重症・救急患者への救命医療支援を開始した。年が明けた1月1日からは2チームに分かれ、バラヴァトとバムの市街地にて、特に低所得者層の比率の高い地区を対象を選び、1日1-2ヶ所での巡回診療活動を開始した。12日に全ての診療活動を完了し、保健科学省など現地関係機関に活動を報告し、今後の医療活動に有用な医療物資や機材などを提供した。

医療活動による成果としては、現地からの要請によりAMDAがケルマン市内で先行して着手した「高度救命医療支援」により、疲労困憊していた現地医療スタッフを支援できたこと、またバム市およびバラヴァト地区で実施した「巡回診療」により、医療サービスの行き届いていない地域にも、基本的な医療サービスを提供できたことが挙げられる。